

令和4年度第2回富山県私立学校審議会議事録

- | | | | | | |
|---|----------------|-------------------------------|-------|------|-------|
| 1 | 日 時 | 令和5年3月22日(水) 15時00分から15時30分まで | | | |
| 2 | 場 所 | 富山県民会館 706号室 | | | |
| 3 | 定 数 | 12名 | | | |
| 4 | 出席委員の 数及び氏名 | 11名 | | | |
| | | 井上春枝 | 今井亜矢子 | 上田雅裕 | 黒崎紫抄代 |
| | | 里見治美 | 島田好美 | 須田英克 | 中崎健志 |
| | | 西館有沙 | 前川俊朗 | 森田喜邦 | |
| 5 | 欠席者 | 河合敦夫 | | | |
| 6 | 傍聴人数 | 無 | | | |

7 諮問事項

- (1) 学校法人博愛学園あけぼの幼稚園の廃止の認可について
- (2) 独立行政法人国立病院機構富山病院附属看護学校の廃止の認可について

8 報告事項

- (1) 全国私立学校審議会連合会第77回総会について

9 議事の経過及び結果

- (1) 開会にあたり、事務局から富山県私立学校審議会規程第7条における委員総数12名のうち11名出席により定足数に達しており、会議が有効に成立したことが報告された。
- (2) 掃本学術振興課長より挨拶があった。
- (3) 富山県私立学校審議会規程第9条の規定により黒崎紫抄代会長が議長となった。
- (4) 議事録署名人の選出について、議長の指名により、前川俊朗委員、中崎健志委員が選出された。
- (5) あけぼの幼稚園の廃止認可について、資料2、参考資料2、3により事務局から説明があり、議長から委員に意見が求められた。

(上田委員)

この園について、少子化の影響があったということ。認定こども園は給食室が必要なため、工事費も相当かかることから、そういう投資ができるのかという問題もあったと考えている。

園児減少に加えて、投資ができない中、廃園せざるを得なかったという一面もある。

現在は少子化の中で、幼稚園というものは本来3歳年少児から募集していたわけだが、共働き率の増加、核家族の増加で、3歳まで待てないという状況が起こっている。年少児で園児募集をしても、園児がいない。幼稚園単独でやるにはなかなか、非常に難しい。

先ほどの一覧表にあるように、幼保連携型認定こども園や幼稚園型認定こども園になって、0歳または1歳ぐらいから、園児を確保しながら、何とか年少までにそれなりの園児を確保して維持しているということが、実は従来の幼稚園の現状である。

今回の廃園の件につきましては、たまたま姉妹園があり、財産等についてもそこで処理できるということだったので、残念ながら廃園という決断をされたと聞いている。

(議長)

他に意見がないようなので、学校法人博愛学園あけぼの幼稚園の廃止の認可について、認可を適当と認める旨、答申してよろしいか。

異議がないので、学校法人博愛学園あけぼの幼稚園の廃止の認可について、認可を適当と認める。

(6) 独立行政法人国立病院機構富山病院附属看護学校の廃止認可について、資料3により事務局から説明があり、議長から委員に意見が求められた。

(議長)

数年前にも日赤看護学校が廃止となったが、今ほどの説明でも学生が4年制大学に流れたとあった。

一方で、富山県の人口減少は非常に危惧すべき面があり、特に若い女性の県外流出が多いと言われている。若い女性が学ぶ場がなくなっていくということで、うちの所管ではないが、そのあたりは何か、例えば県立大学の方で吸収しているとか、どのように動いている感じか。

(事務局)

今ほど貴重なご示唆をいただいた。

若い女性の県外流出というのは、重要な課題ということで、県全体で取り組んでいかなければならない課題だと思っている。

今回の学校の廃止は別として、県立大学の方でも定員を拡充しており、なるべく県外流出を防ごうとやっている。

ただ県立大学は理系なので、文系ということでいうと、そこまではフォローはしきれてない。

今、国の方でも、リケジョといったところの分野も増やしていこうという取り組みを進めており、県でもそのリケジョの流出、或いは富山に帰ってくる時のインセンティブということで、奨学資金の減免等にも取り組んでいる。

看護の方も、県立大学の方では今春第1期生が看護学部を卒業する。さらに、来年の4月に大学院を新たに設置することと、保健師助産師でも、1年制の専攻科を作りながら、県内定着と県内の医療機関の人材確保の支援ということで、取り組んでいるところである。

県外流出はなかなか難しい課題ではあると思うが、引き続き取り組んで参りたい。

(議長)

そのほかに意見が出ないようであれば、独立行政法人国立病院機構富山病院附属看護学校の廃止について、認可を適当と認める旨、答申してよろしいか。

異議がないので、独立行政法人国立病院機構富山病院附属看護学校の廃止の認可について、認可を適当と認める。

(議長)

了承いただいた諮問事項について、会長名で知事へ答申する。答申文案については、会長に一任願いたい。

(7) 全国私立学校審議会連合会第77回総会について、事務局から説明があった。

(8) この他、各委員の立場からの現状を踏まえ意見が出された。

(上田委員)

幼稚園・認定こども園の話だが、今不適切保育と、虐待の問題が結構ニュースになっているが、現場としては、いつも不適切な虐待をしている先生はいない。それが話題になったために、保護者がすごく過敏になっている。

また、子供の言葉で話をするのが、なかなか保護者に理解してもらえず、その逆にとられてしまうということがある。

現場の先生が、本来の保護者との対話ができないという状況が現実起こっている。

きちんと伝えたいが、今日はこういうことあったという何か言い訳を伝えなければいけない。子供はこうしたが、これはこうでこういうことがあったという、前向きなことを伝えたいのに、そういうことができないという現状が起きている。

ただ、もともと幼稚園現場の職員不足が厳しい中に、ますますなり手不足が加速して、養成校の話聞いても、本来夢を見て希望して入ってきた世界が、国が処遇改善をしていただいたのはありがたいが、介護、保育現場は大変な仕事なのに給料が安い、だからそれを解消しなくてはいけないということを盛んに言っていたのも、ありがたい。

しかし、それが逆に学生の親御さんに、こんな大変な仕事をやるのかと、無理してやらなくていいのではないかという状況になってしまい、待遇が改善したのに、希望者が減る。

そこに虐待とか不適切なことがあり、現場が非常に大変な状態になっており、先ほどの廃園の問題も、もちろん園児減少もあるが、小さな園でも職員は確保しなければならず、職員がいないという問題がすごく原因の1つである。職員確保の問題や、イメージを良くすることについて県当局の方でも何かできることはないか。保育・幼稚園の現場で働く先生が減っているというのが現状である。

(議長)

介護もそうだが、保育の現場も目が回るくらいの忙しさであり、新型コロナの対応でもかなり気を使っているという声をよく聞く。

加えて、人手不足というイメージが先行してしまい、厳しい状況である。富山短大の方でも、幼児教育学科があるが、そこはなんとか定員が確保できそうだが、非常に厳しいと聞いている。

(9) 事務局より、今回の審議会の案件がすべて終了した旨を伝え、審議会を終了した。

令和5年3月22日